

# 運動器リハビリテーション

(運動器リハビリテーションⅠ 認定施設)

## 運動器リハビリテーションの対象疾患

|       |  |
|-------|--|
| 四肢の骨折 | 大腿骨近位部骨折、橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折、足関節骨折など上下肢の骨折  |
| 脊椎疾患  | 腰椎圧迫骨折や脊髄損傷                              |
| 外傷疾患  | 転倒や交通事故などによる骨折および挫傷                      |
| 関節疾患  | 人工関節、関節形成術、関節鏡などの処置が主となるリウマチ、変形性関節症などの疾患 |
| その他   | 腱板断裂、肩関節周囲炎、運動器不安定症など                    |

## 当院におけるリハビリテーションの取り組み

### ■リハビリテーションの基本方針

当院では上記のような疾患に対して医師の指導のもと、それぞれの患者様にあった治療プログラムを立案して、マンツーマンでの対応を行っています。また自宅での生活を考慮し、自立を目指したりリハビリテーションを行っています。

### ■リハビリテーション内容

筋力維持増強訓練、関節可動域訓練、歩行訓練、日常生活動作訓練などを行っています。

## ■リハビリテーションの流れ

### ①病棟のベッドサイドから

患者様の病態に合わせ早期からの離床を心掛け、長期臥床に伴う全身状態の悪化の防止に努めています。



## ②リハビリテーション室へ

疼痛の軽減、全身状態の回復に伴いリハビリテーション室での訓練を行っていきます。リハビリテーション室では平行棒、歩行器、杖などの機器を利用して訓練を進めて行きます。患者様の疼痛、筋力などを考慮しながら座位保持訓練、立位訓練、歩行訓練と進め、自立を目指します。また、病前の生活は患者様一人一人異なるため、個々の生活にあった動作の獲得を考え、患者様のペースにあった無理のないリハビリテーションを心掛けています。また、転倒による再骨折を防ぐために、転倒予防訓練の指導も行っています。



### ③外来リハビリテーション

肩関節疾患や上肢の骨折および足関節骨折などの疾患を受傷した患者様のうち、主治医よりリハビリ継続と判断された患者様については当院退院後も外来リハビリテーションを継続して行っています。



#### ■地域連携クリティカルパスの取り組み

当院では、周辺の5つの回復期リハビリテーション病院と連携し、大腿骨近位部骨折の地域連携クリティカルパスを導入しています。当院での手術治療終了後、早期のリハビリ転院が可能となっております。

## ■運動器チームの活動内容

### ①チーム内勉強会

スタッフの治療技術を高めるために、月に1回運動器チーム内で勉強会を行っています。内容は、「骨や筋肉の触診」や「患者様の治療内容についての検討会」などを行っています。



## ②運動器チームカンファレンス

毎朝チーム内でカンファレンスを行い、新たにリハビリテーションが開始となった患者様についての治療方針を確認しています。また、治療に難渋している患者様についての治療方針の再検討も行っています。セラピスト一人の考えに固執せずに患者様への治療が提供できるよう、チーム内で力を合わせて介入を行っています。